

変容する社会における大学の外国語教育の課題 —福山大学の卒業生に対するアンケートから—

劉 国彬*

On Foreign Language Education of the Universities in Social Transformation Time:
A Survey of the Graduates of Fukuyama University and Analysis of the Results

Guobin LIU*

ABSTRACT

With the aim of developing an improved level of globalization, multilingualism, and multiculturalism, the higher education institutions in Japan have, in recent years, generally adopted the model of English plus a second foreign language. Since being established in 1975, Fukuyama University has produced a great number of graduates. To investigate the possible problems in teaching and learning foreign languages during a time of social transformation, the author conducted an investigation of 115 previous graduates. Based on the results of the survey, it is concluded that the university graduates are recognizing the need within society to use various foreign languages in addition to English. Moreover, an opinion exists that foreign language education should also focus on improving communication skills, encouraging students to obtain language proficiency certification, and preparing for studying abroad.

キーワード：大学、外国語教育、卒業生

1. はじめに

近年、世界はグローバル化し、多言語・多文化化が進んでいる。こうした社会の変容に伴い、高等教育界においても、グローバル社会に適した人材の養成を目指すために、グローバル化の重要な指標とされている外国語教育も変化しつつある。現在まで、高等教育機関の外国語教育の多くは、「英語+初修外国語」という形をとっている。即ち、必修科目の英語の外、必修・選択必修・選択科目としての初修外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語など）が開設されている。しかし、多くの日本の高等教育機関の外国語教育は、下記の先行研究が指摘するように初修外国語を軽視する傾向が顕在化しつつある。

例えば、岩崎（2007）は、日本の大学は英語以外の言語の学習機会が安易に削られていることを指摘している¹。本間ら（2007）は、どうすれば英語一辺倒から初修外国語の意義を再認識できるかという視点から論じている²。杉野（2017）は、日本の外国語教育に見られる英語中心主義（スキル重視の英語教育、英語一辺倒は格差を生むなど）の弊害³を指摘している。また堀田（2004）によると、企業側は、英語教育については「ビジネス英語」科目の開講を求め、他方、中国語教育は英語教育と同様の専門教育化が必要であるとの認識を持っているとしている⁴。こうして、英語だけを理解する人材ではなく、多言語人材を求める企業側と、大学側の外国語教育の間に、矛盾が生じている。

*大学教育センター准教授

福山大学の場合、「全人教育」と「国際性を培う基礎とするため」、建学当初（昭和50年）、英語、ドイツ語の2つの外国語科目を履修することとした⁵。昭和59年度から「国際理解とより多い国々の語学を修得する」道を開くため、第二外国語として、ドイツ語の他に、中国語、フランス語を開講した⁶。そして、2018年から新たに韓国語を開講している。このことから、福山大学は外国語教育を重視という姿勢は変わらず、しかも、いわゆる「西洋言語」に加え「アジア言語」も重視してきていると言えるだろう。

創設から40年以上経った福山大学は、多くの卒業生を社会に送り出した。彼らは在学中に外国語教育を受け、変容している社会において、外国語についてどのように考えているだろうか。そこで、本稿では、福山大学の卒業生を対象にアンケートを実施し、①卒業生の就職と仕事の際の外国語の役割、②卒業生の視点から見た母校の外国語教育、を計量的に明らかにし、結果を考察しておきたいと考える。

なお、卒業生に注目した理由は、企業側と大学側を結びつける者として、卒業生は重要であり、彼らの実情の把握と意見を聴取することは、福山大学の外国語教育を再検討し課題点を検出できるのではないかと考えるからである。

2. 研究の対象と方法

本稿では、それぞれの職場で活躍している福山大学の卒業生を対象に、彼らの在学中、就職活動した際、卒業後の外国語使用状況、さらに後輩や母校の外国語教育に対するコメントについて、アンケート調査の結果に基づき明らかにした。

本アンケートの調査は、福山大学が2017年11月25日に開催した、平成29年度、「卒業生による学生のための業界説明会」⁷の機会をとらえて調査を実施した。同会には97社、卒業生186名が参加した。筆者は三谷康夫就職委員長に依頼して、説明会において、各社に勤務している卒業生にアンケートを配布し回答してもらった。アンケート回収数は121部であり、回収率は65%であった。121部の中で、6部は福山大学の卒業生ではないため、分析対象から外し、115名を分析対象とした。

3. 調査対象の基本的な属性

調査対象者の男女の割合は男性109名、女性16名であった。出身学部は図1の通りである。出身学部は図のように、経済学部が最も多く48%で、次に工学部34%であったが、生命工学部と薬学部と人間文化学部はそれぞれ7%と6%と5%で、全体の2割程度しか占めなかった。就職先は県内103名、県外12名である。

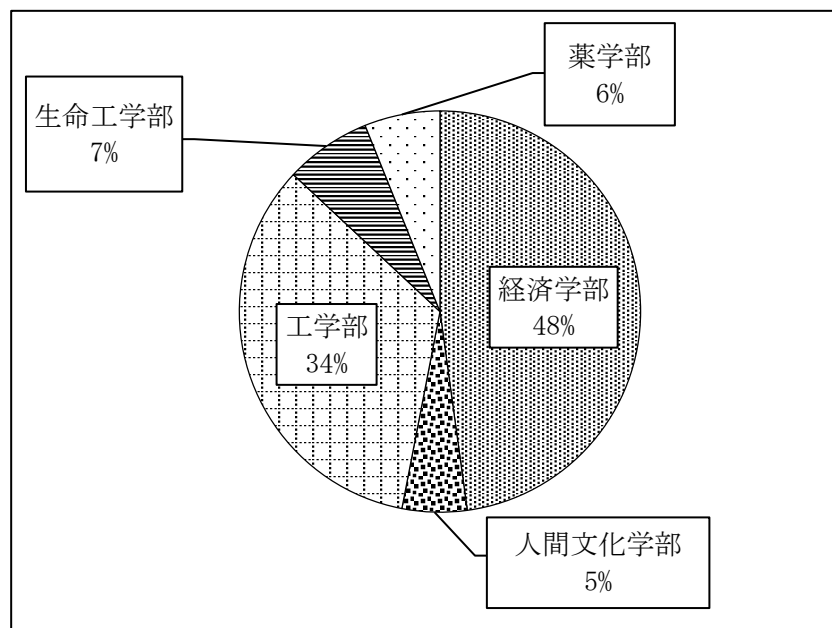


図1 卒業生の出身学部

就職先の業種を、図2の「全学部を通じた就職先の業種」と図3の「学部別にみる就職先の業種」を比べてみると、全学部の就職先の業種で最も多いのは「製造業」が22%（そのうち、工学部12%、経済学部6%、人間文化学部と生命工学部がそれぞれ2%）、2番目に多いのは「金融・保険業」17%で（そのうち、経済学部14%、人間文化学部と工学部と生命工学部がそれぞれ1%）、「小売り・卸売・飲食業」は16%（そのうち、経済学部10%、生命工学部3%、工学部2%、薬学部1%）、「サービス業」は15%（そのうち、経済学部8%、工学部と人間文化学部がそれぞれ3%、生命工学部1%）、「建設業」は15%（工学部11%、経済学部3%）である。「その他」は、調製薬局、病院、広告、教育、官公庁の回答であった。

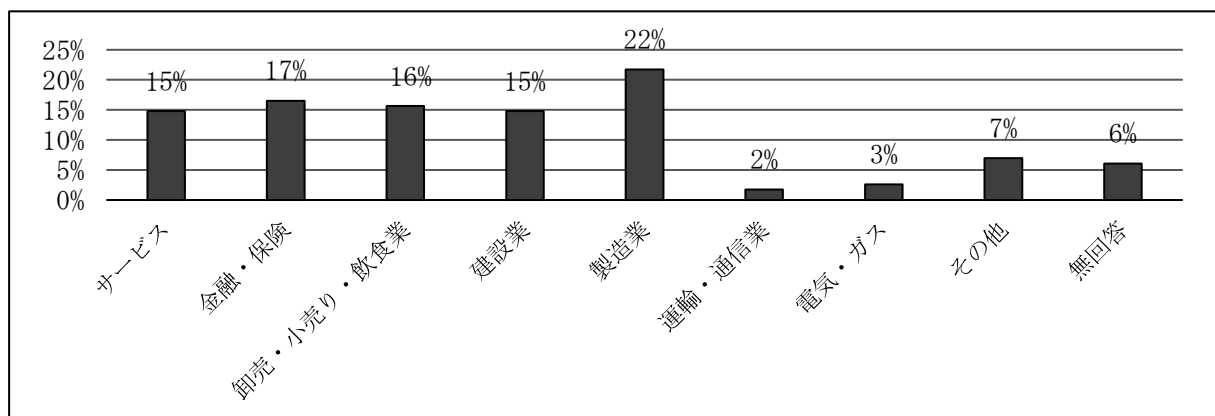


図2 全学部を通じた就職先の業種

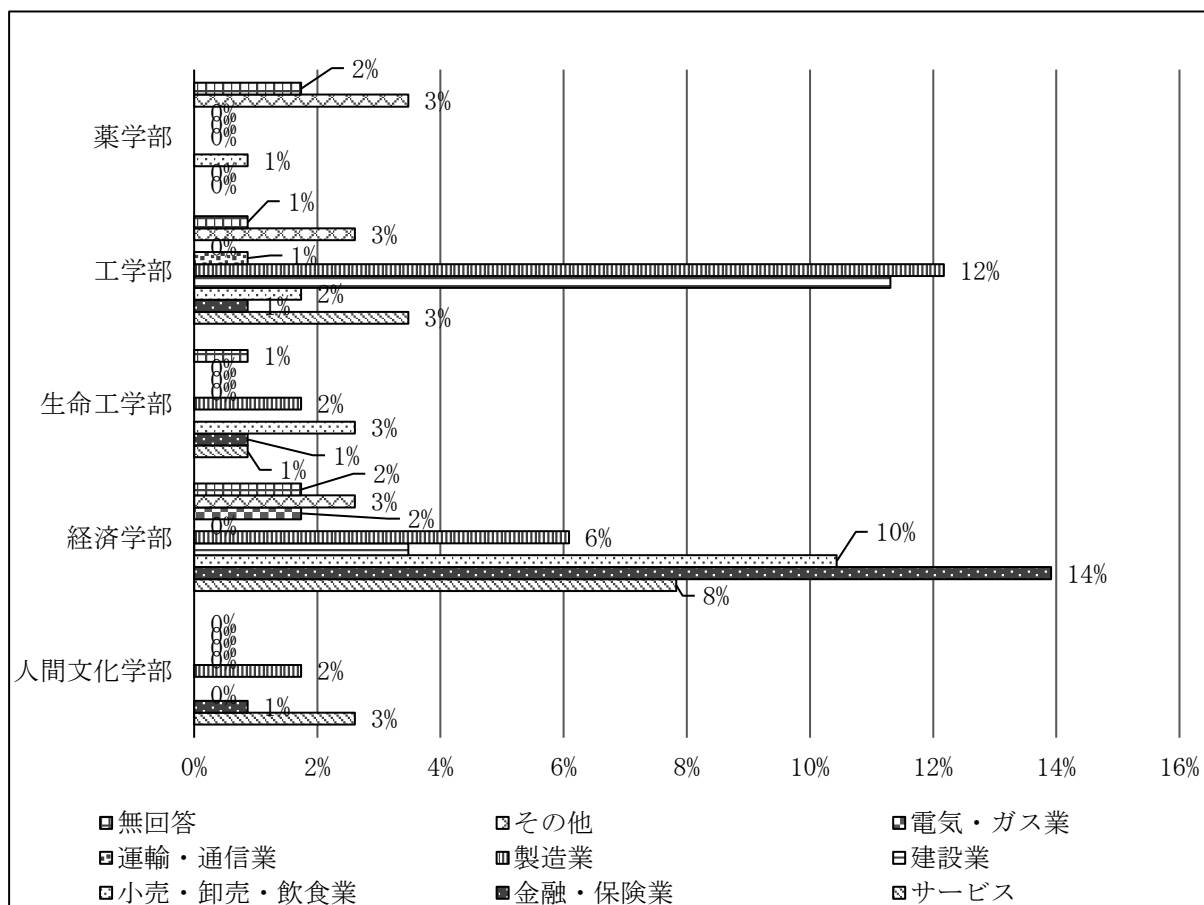


図3 学部別にみる就職先の業種

次に、就職先の職種を、図4の「全学部を通じた就職先の職種」と図3の「学部別にみる就職先の職種」を比べてみると、全学部の就職先の職種で最も多いのは「営業系」で28%（そのうち、経済学部22%、工学部3%、生命工学部2%、人間文化学部1%）、2番目に多いのは「事務系」の14%（その内訳は、経済学部9%、人間文化学部3%、工学部と生命工学部がそれぞれ1%）、「技術系」は13%で、全員工学部である。「IT/エンジニア系」6%（そのうち、工学部4%、経済学部2%）、同じく「金融系」6%（そのうち、経済学部5%、人間文化学部1%）、「医療系」6%（そのうち、薬学部3%、生命工学部2%、工学部1%）である。ほかは図4と図5の通りである、なお、「その他」は、調製薬局、品質管理、教習指導員の回答であった。

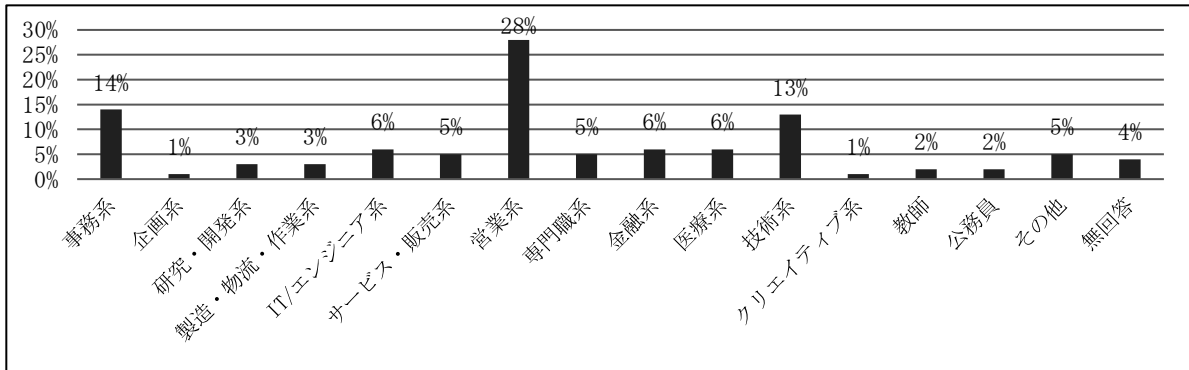


図4 全学部を通じた就職先の職種

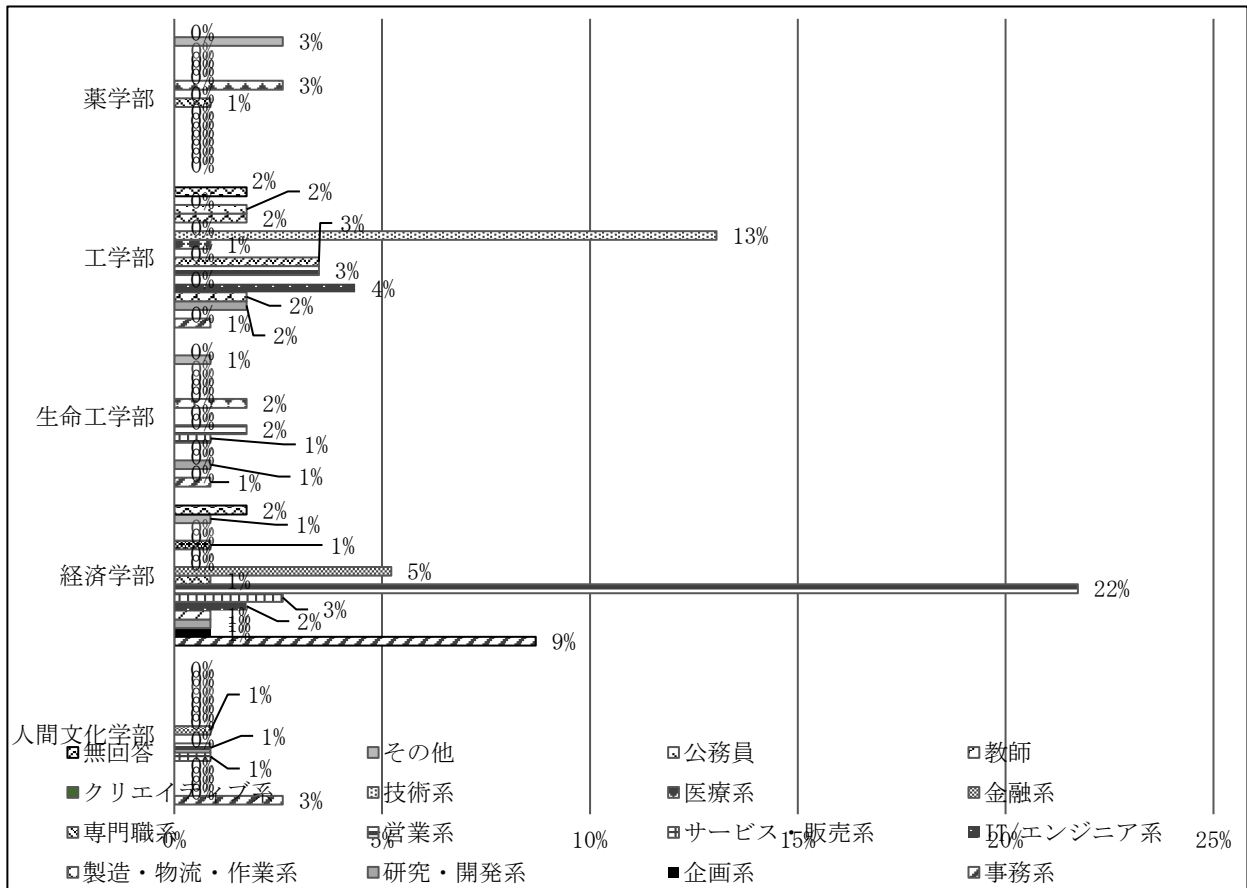


図5 学部別にみる就職先の職種

就職年数についてみると、図 6 で示したように、「1～5 年」は経済学部と工学部が最も多く、18%と 10%で、次は生命工学部 4%、薬学部 3%、人間文化学部 1%の順である。調査した卒業生の卒業した年数が 1～5 年以内のほうが 3 割以上占めていることが示されている。

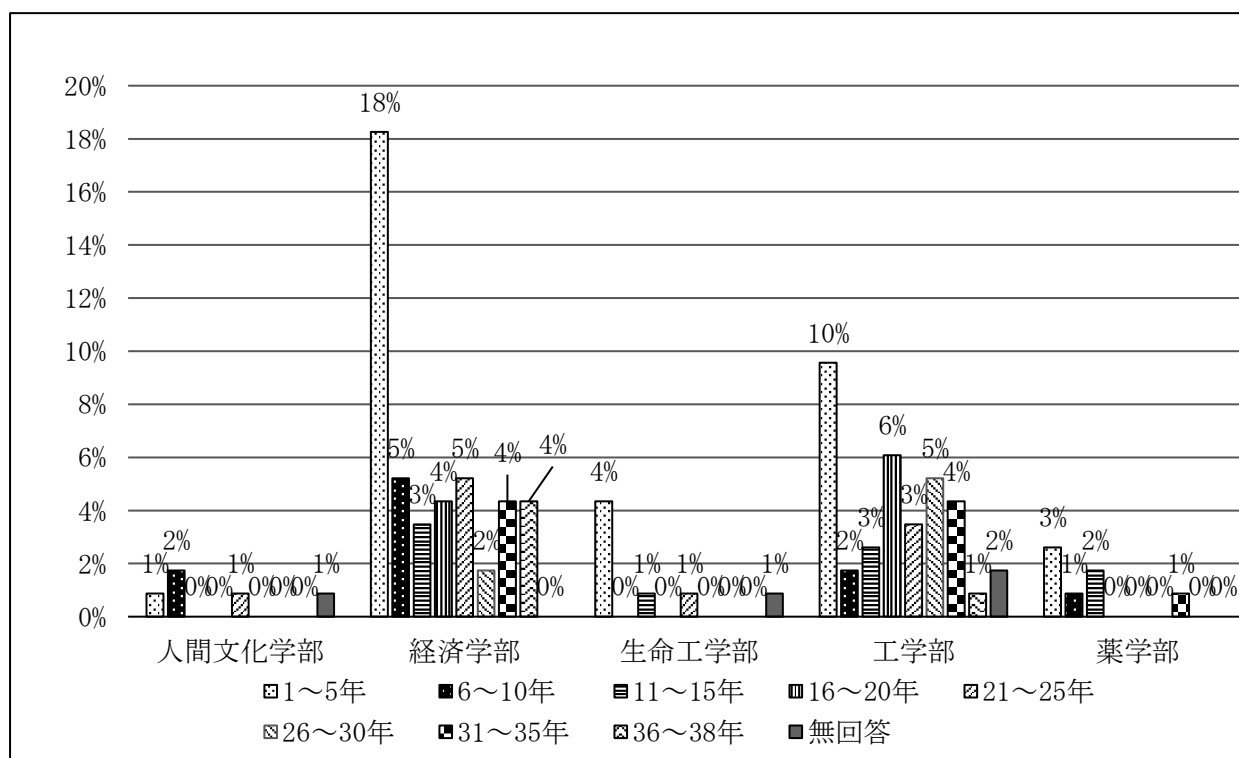


図 6 就職年数

以上は、調査対象者の基本的な属性であった。次は、彼らの外国語学習についてみてみよう。

3-1 在学中の外国語学習について

図 7 で示した通り、必修科目英語の他、初修外国語科目は中国語を選択したのが最も多く、次はドイツ語であった。

学習年数を見ると、図 8 のように、中国語の場合、1 年～4 年までの学習者がいるが、ドイツ語の場合は、1 年、2 年、4 年の学習者で、フランス語の場合は、1 年と 2 年のみであった。中国語の場合、2016 年から中級中国語と上級中国語の開講及び福山大学孔子学院の開設など、学生の中国語学習の環境が整いつつあり、ドイツ語の場合も、人間文化学部が 2 年生向けのクラスを開設している。しかしフランス語の場合は、大学では 2 年生に向けたクラスを開設していない。フランス語 I と II を履修後、続けて勉強した学生は、自分の興味で独学したのではないかと推測される。

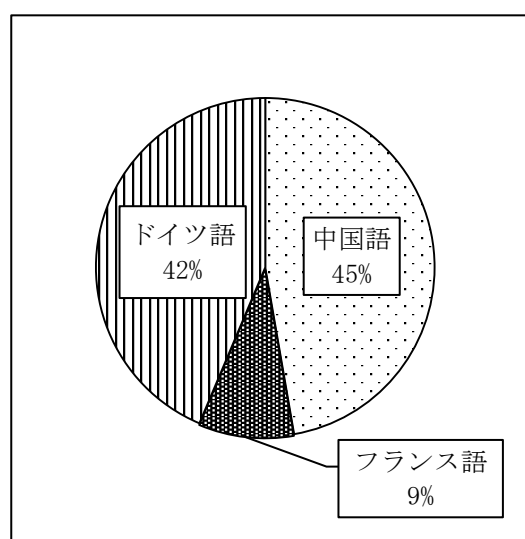


図 7 初修外国語の選択状況

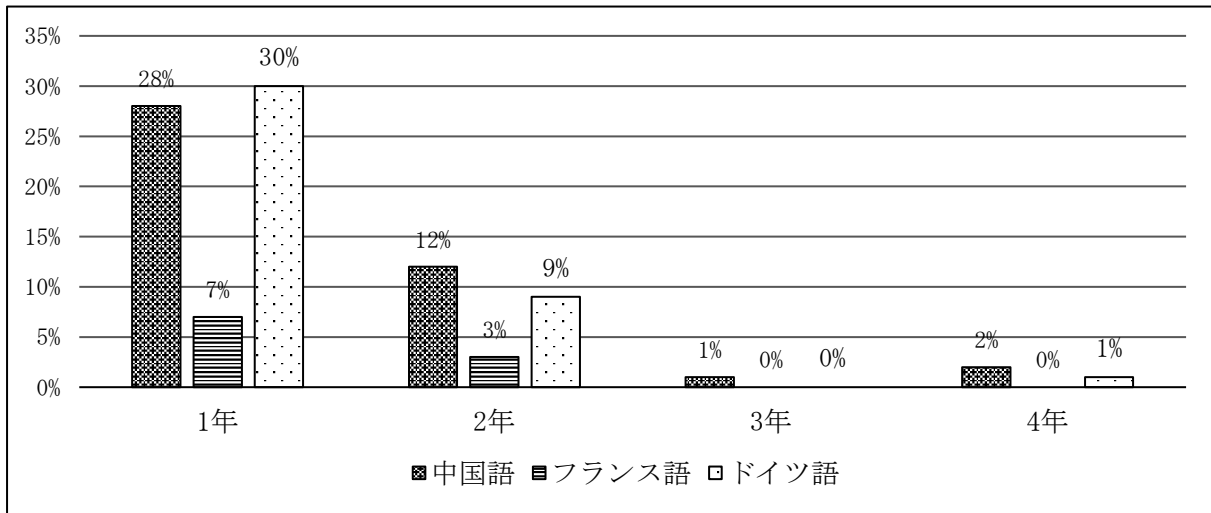
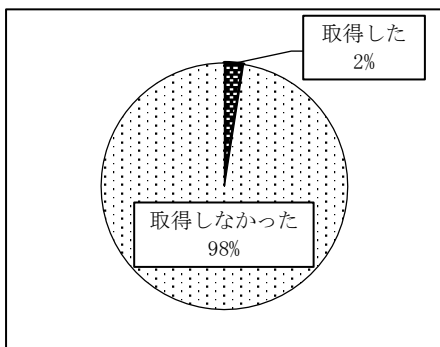


図8 初修外国語の学習年数

在学中取得した語学資格については、取得したのはわずか2%（2名）で少なかった。詳しく見ると、中国語の資格 HSK3 級を持つのは1名と英語資格の TOEIC と HSK5 級を持つのは1名であった。



英語	TOEIC 1名 (経済学部・就職2年目)	
中国語	HSK3級 1名 (経済学部・就職2年目)	HSK5級 1名 (経済学部・就職2年目)

注: HSK5 級と TOEIC の資格を持つ者は同一人物である。

図9 在学中の取得した語学資格

3-2 就職活動と外国語学習について

次は、彼らが就職活動した際に、企業側が学生の在学中の外国語の学習状況について、どれほど興味と関心を持ったかを明らかにする目的での設問に対する回答である。図10から分かるように、企業に「聞かれていない」のは84%、「覚えていない」10%、企業に「聞かれた」のは6%という結果であった。ここで注目したいのは「聞かれた」の内訳である。

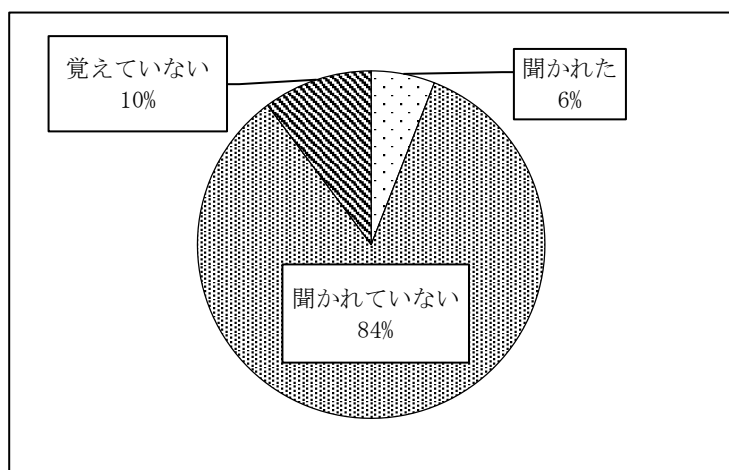


図10 就職活動の際、「どんな外国語を勉強した」の質問の有無

表1 「聞かれた」の詳細

就職年数	就職先	業種	職種	学部
1	県内	卸売・飲食業	営業系	経済学部
1	県内	製造業	事務系	工学部
2	県内	無回答	営業系	経済学部
2	県内	金融・保険業	営業系	経済学部
3	県内	サービス	営業系	工学部
4	県外	卸売・飲食業	サービス・販売系	経済学部
6	県内	卸売・飲食業	営業系	経済学部

表1で分かるように、「聞かれた」と回答したのは就職年数1~6年、即ち最近就職した卒業生であった。職種を見ると、事務系は1人の他、全員は営業系とサービス・販売系である。企業側は日本国内のみではなく、海外に向け、あるいは、日本国内の外国人に目を向けることの意識が高まってきたことが推測できる。

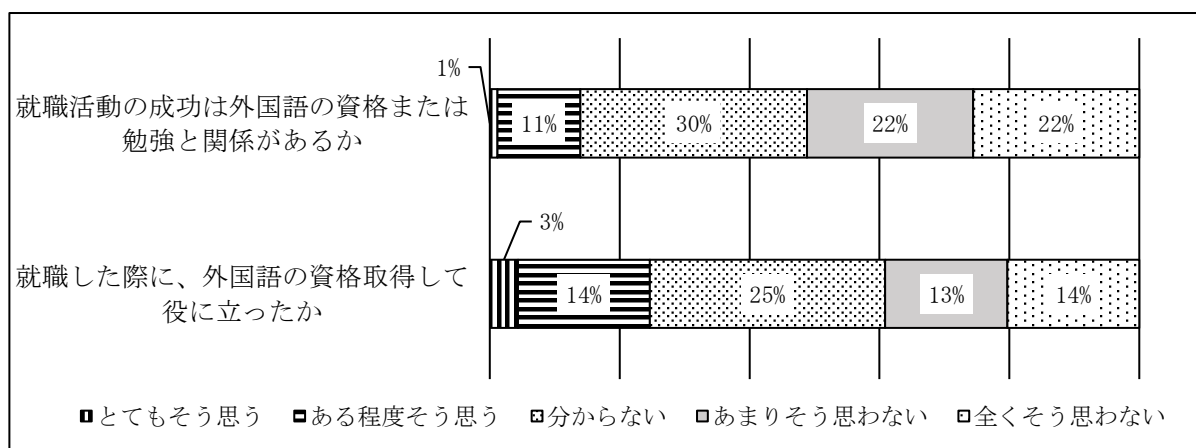


図11 就職活動の成功と外国語の資格または外国語の学習と関係について

図11の設問は、就職活動の際に、就職成功は外国語とどれぐらい関係があるかという目的であった。回答を見ると、「就職活動の成功は外国語の資格または勉強の関係」について、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の肯定的な回答は12%であった。「外国語資格取得で役に立った」について、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の肯定的な回答は17%で、上記図9で資格取得者は2%という数字と矛盾しているように見えるが、図11では、自分の考え方を聞く目的で、実際に実行したという数字ではないため、一致していないことも当然であろう。外国語資格を取得していない人は、

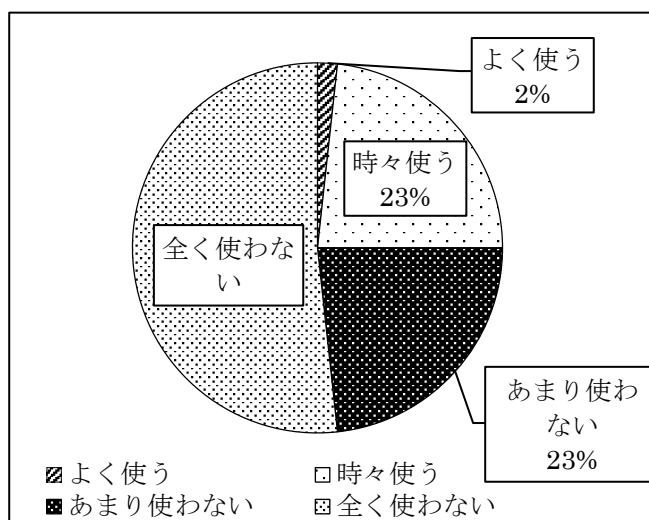


図12 仕事上の外国語の使用状況について

外国語資格の取得の重要性を就職後で分かったことを物語っているのではないかと考えられる。図12には、仕事上の外国語の使用状況を示した。

3.3 現在従事している仕事と外国語について

現在従事している仕事内容と外国語の使用頻度との関係を尋ねた質問では、図13に示すように、「よく使う」のは研究・開発系で33%、次に多いのは金融系の17%である。「時々使う」のはIT・エンジニア系71%、次に多いのは製造・物流・作業系の67%である。「あまり使わない」のは教師が最も多く66%、「全く使わない」のは企画系とクリエイティブ系100%であった。

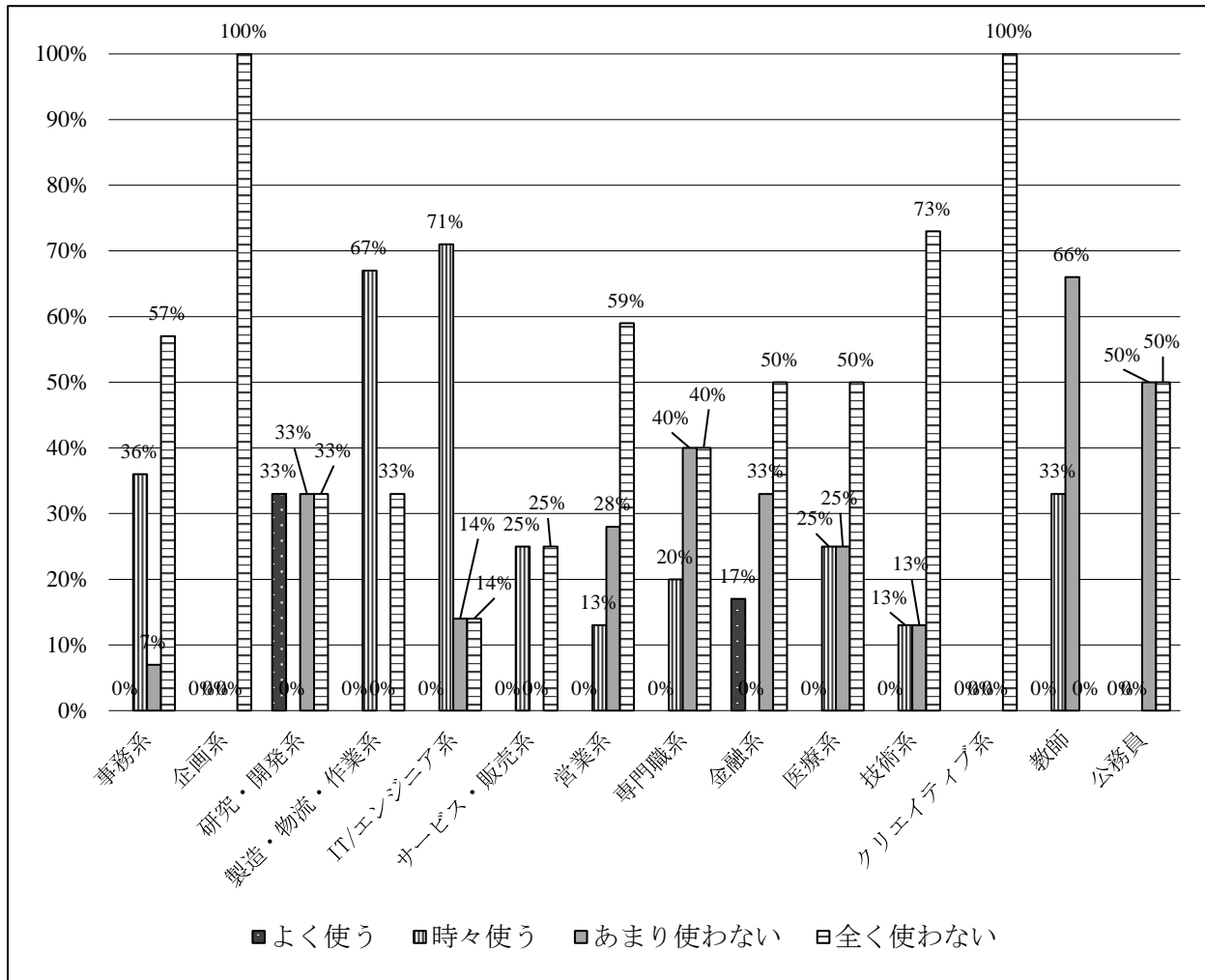


図13 職種からみた仕事上の外国語の使用状況について

では、「よく使う」と「時々使う」を回答した者は、どんな外国語をよく使うかについての質問では、英語は29%の3割近く、次に使われるのは中国語7%であった。大学で開設しているフランス語とドイツ語は仕事上使う機会が全くなかった一方、ベトナム語とポルトガル語を使う人がそれぞれ1%いることは興味深い。近年、日本の企業の海外進出で重要な国がベトナムであること、ベトナムからの研修生が日本に多く在住していることを物語っている。製造業にはブラジル人で就業している者も県内に多くいることから、ポルトガル語も必要となっているのではないかと推測される。

図14は、大学在学中、外国語（英語と初修外国語）を習得してよかったかどうかについて評価する設問への回答結果である。「とてもそう思う」は6%、「ある程度そう思う」は31%で、4割近くの卒業生は肯定的に回答している。

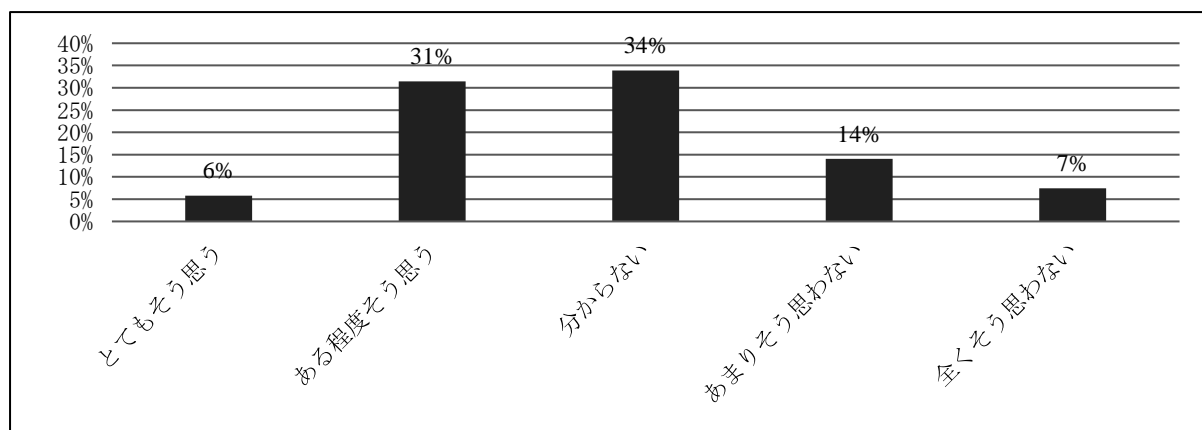


図 14 在学中外国語学習してよかったかについて

次に、母国語以外で仕事や生活に一番役に立った言語についての設問への回答を見ると、英語は 76%、その次は中国語 3%、フランス語 1%の順であった。

最後に、大学で新たに外国語科目を開設することとすれば、どんな言語を望むかについて、「韓国語」30%、「スペイン語」16%が圧倒的に多かった。次は、タイ語、ベトナム語、ロシア語、イタリア語、ラテン語、マレー語それぞれ 1%であった。2018 年度から、大学は初修外国語の韓国語を新設したが、履修者が非常に多くいることは、この調査の結果は一致していると言える。

3-4 在学中海外留学経験について

最後の項目は海外留学についてである。回答者 115 名のうち、海外研修ないし留学経験者は 5 名であった。この 5 名について、詳しく見ると、表 2 で示した通りである。

表 2 海外留学の経験

留学先	人数	留学期間	出身学部	就職年数	業種	職種
中国	1	1 年間	経済学部	2 年目	不明	営業系
中国	1	1 か月	経済学部	2 年目	金融・保険業	営業系
中国	1	1 か月	経済学部	3 年目	金融・保険業	営業系
中国	1	1 か月	経済学部	5 年目	卸売・小売り・飲食業	営業系
イギリス	1	1 か月	薬学部	1 年目	調製薬局	医療系

留学した 5 名に留学と就職の関係の有無ないし深さを聞いたところ、「関係が深い」と「とても思います」と「思います」という全員肯定的な回答であった。次に留学と仕事についてみると、「とても思います」は 1 名、「思います」2 名、「分かりません」2 名という結果であった。「分かりません」と回答した 2 名とも 1 か月のイギリスの留学と 1 か月の中国であり、短期留学は語学レベルを高めるには効果が少ないのではないかと推測する。

4. 卒業生から後輩や母校に対するコメント

(1) 言語選択について (18 名がコメントを記述、その中で「英語」が最多)

- ・英語に加え、中国語がこれから一層大切だと思います。(工学部・就職 36 年目)

- ・製造業であれば、今後、ベトナム・中国・インドネシアの研修生と共にすることがあり、その外国語の学習は生きると思います。(工学部・就職年数は不明)
- ・英語・中国語・韓国語、その他の東南アジアの言語を習得したほうがいい。(人間文化学部・就職6年目)

(2) 語学資格について (8名がコメントを記述)

- ・英語に関する資格。[人間文化学部(就職6年目)、経済学部2名(就職2年目・24年目)、工学部4名(就職17年、3年、10年、36年目)]
- ・資格を多くとっているほうが得です。(薬学部・就職1年目)

(3) 海外留学について (8名がコメントを記述)

- ・スキルアップのためには、積極的に行ったほうが良いと思われる。(人間文化学部・就職6年目)
- ・グローバル化の速度が速いですから、視野を広げる意味でも、是非経験してください。(工学部・就職36年目)
- ・海外留学は学生の頃しか経験できないので、すればよかったと思う。(工学部・就職2年目)
- ・留学などで、実際に語学に触れることが大切だと思います。(工学部・就職17年目)
- ・在学中でないと経験できないので是非してください。(薬学部・就職1年目)
- ・機会があれば行ったほうが良い。(経済学部・就職38年目)
- ・留学などで、実際に語学に触れることが大切だと思います。(工学部・就職17年目)
- ・アメリカ。(経済学部2名・就職2年目と24年目)

(4) 母校の外国語教育についてのアドバイス (21名がコメントを記述)

- ・私が社会に出て思ったことは、海外から日本に滞在される方々が年々増加していることです。企業の顧客・取引等、海外の方からも注目を集めてもらうよう、言語が多いほうが有利になります。(生命工学部・就職2年目)
- ・外国語教育も大事だが、まず、本人のコミュニケーションアップにつながるような外国語教育を取り入れてみてください。就職説明会などで話をするのが苦手な学生さんが見受けられます。(人間文化学部・就職6年目)
- ・英語の話せる薬剤師育成は大学の魅力・武器となるのではと感じる。外国人患者も一定数おり、仕事上の必要性も感じる。(薬学部・就職15年目)
- ・英語・中国語に接する仕事・場面が多いが、日本語以外の言語をマスターするには、コミュニケーションを取るのに大変重要なので、どんな言語でもよいので、興味がある言語をマスターするほうが良い。必ず、強味になると思う。(工学部・就職20年目)
- ・社会経済が人手不足という課題になっています。技術職・福祉職など、外国の方への雇われが必要となっています。自社で外国の方への対応が出来ることが求められますので、外国語教育を学ぶことをお勧めします。(経済学部・就職33年目)
- ・中国に生産拠点を持つ企業が増えています。中国語を教育に取り入れることは有効だと思います。(経済学部・就職31年目)
- ・文科省でも「話せる英語」を課題としてとらえ、小学校の教育課程にも、英語が取り入れられていますが、就職のこのことのみでなく、21世紀に生きる国際人として、英語を話せることは、大切なことであり、人生も豊かになる手掛かりの一つであると考えます。(工学部・就職36年目)
- ・実際に外国の方と話す機会をもっと増やしてほしい。(薬学部・就職1年目)
- ・英語は今後必要です。(工学部・就職32年目)
- ・教職へ進むのであれば、英語でも技術系の英語を学んだほうが良いと思います。英会話など必要な場面には、あまり会うことはありませんが、広い人間関係を作るには必要かもしれません。(工学部・就職36年目)

部・就職 32 年目)

- ・もっと実用的な英語力を学生時代に学んでおけば良かったと思う。(経済学部・就職 17 年目)
- ・実用的なビジネス英語、コミュニケーションに必要な語学などがあればよいと思います。(経済学部・就職 6 年目)
- ・授業としての外国語教育ではなく、会話重視の教育に注力したほうが社会で非常に役立つと思います。(経済学部・就職 24 年目)
- ・古いですから分かりませんが...今後、外国語は必要であると感じる。①英語 ②欧州関係(ドイツ語)...技術はアメリカ・ドイツ中心。今後も分からない...一時的に投資目的で外国語を変えていくことはない考える。(経済学部・就職 37 年目)
- ・英会話ができればよいと思います。グローバル化が進んでいるため。(工学部・就職 19 年目)
- ・外国語教育は積極的に行ったほうが良い。海外での仕事が多いため、選択が広がります。(工学部・就職 11 年目)
- ・ドイツ語を楽しく学べるとよい。(薬学部・就職 31 年目)
- ・今の時代、外国語(英語・中国語)が必要。(工学部・就職 10 年目)
- ・グローバル化が加速する中、特に英語レベルが必要となっています。日常会話だけでなく、ビジネス英語も重要です。インターネットの点からも英語が主流なため活かされます。(経済学部・就職 24 年目)
- ・必須項目になる可能性があり、勉強すべき。(経済学部・就職 2 年目)
- ・外国の教師を採用しているのは、とても良いと思います。(工学部・就職 2 年目)

5. まとめ

以上、福山大学の卒業生に対するアンケートの分析を行った。このアンケートから得た知見は以下のようにまとめることができる。

第一に、英語のみではなく、多言語学習が必要である。就職の際に、就職先が英語のほか、初修外国語学習を重視する度合いが高まってきていることを窺うことができる。現在、社会のグローバル化が進む中、企業は多様な外国語能力を重要視してきていると言える。

第二に、大学の外国語教育では言語のコミュニケーション能力の向上が求められている。卒業生からの母校や後輩に対するコメントから、これから日本社会は少子高齢化が進み、多くの外国人労働者が日本で働き、加えて日本企業の海外進出も多くなるため、語学力ないしコミュニケーション力アップに取り組む必要があることが分かる。

第三に、語学資格取得と海外留学に力を入れる必要性があることである。今回の回答者の中では、留学経験者や語学資格取得者が少なかった。しかし、彼らは、コメントの中で留学を強く勧めていることからわかるように、社会に出た後、在学中の留学の重要性について気づいたようである。近年、福山大学の学生はブルガリアのソフィア大学との交換留学プログラムなどに参加し、また中国語の検定試験 HSK の受験者が大幅に増加し、かつ中国への留学者が増えており、今後は状況が大きく変わっていくことが期待される。

変容している社会において、多言語能力、とくに欧米の言語だけでなくアジア言語への要求も高まっている。社会が求める人材像に合わせ、多様な外国語の能力を備えた人材の養成が大学の課題ではないかと考えられる。

謝辞：本アンケート調査は、福山大学就職委員長三谷康夫教授のご協力により円滑に実施できたことに対して、心より感謝申し上げます。

【注】

- 1 岩崎克己「日本の大学における初修外国語の現状と改革のための一試案/主に、ドイツ語教育を例にして」『広島外国語教育研究』第10号、2007年3月、57頁。
- 2 本間直人・王凌「大学における初修外国語教育の意義について」『外国語教育研究』第10号、2007年11月、37頁。
- 3 杉野俊子監修、田中富士美・波多野一真編著『言語と教育』明石書店、2017年10月、104頁-108頁。
- 4 堀田泰司「海外留学と日本企業における雇用機会」『広島大学留学生センター紀要』第14号、2004年3月、15頁-27頁。
- 5 福山大学二十年史編纂委員会『福山大学二十年史』昭和60年10月、60頁。
- 6 同上、63頁。
- 7 福山大学では在学生のより良い就職活動のため、福山大学全学同窓会連合会と連携し、社会で活躍している本学卒業生から、会社内容（業種）、働き方（職種）、やりがい、経験、成功したことなどの話しを直接聞くことにより、いろいろな業界のことを知り、就職先選定の参考とすることを目的として、「卒業生による学生のための業界説明会」を開催している。

【資料】アンケート調査票

「就職の際に大学で外国語を勉強したメリットに関する調査」

現在、福山大学の外国語教育を改善するために、皆さんからのご意見を伺っています。あなたの貴重なご意見は、今後福山大学の外国語教育の発展にとって貴重な資料となります。どうぞ本調査にご協力くださいますようお願いいたします。なお、本調査で収集したデータは、すべて無記名でデータ処理されます。また、管理には最大限の注意を払いますので、安心してご回答ください。

福山大学 大学教育センター 劉国彬

- ・性別：①男 ②女
- ・在学中の学部：①経済学部 ②人間文化学部 ③工学部 ④生命工学部 ⑤薬学部
- ・就職先：①県外 ②県内
- ・就職先の業種：①農業 ②林業 ③水産業 ④鉱業 ⑤建設業 ⑥製造業 ⑦電気・ガス ⑧運輸・通信業 ⑨卸売・小売・飲食業 ⑩金融・保険業 ⑪不動産業 ⑫サービス業 ⑬その他（ ）
- ・就職先の職種：①事務系 ②企画系 ③研究・開発系 ④製造・物流・作業系 ⑤IT・エンジニア系 ⑥サービス・販売系 ⑦営業系 ⑧専門職系 ⑨金融系 ⑩医療系 ⑪技術系 ⑫クリエイティブ系 ⑬教師 ⑭公務員 ⑮その他（ ）
- ・就職して_____年目

(一)あなたの大学在学中のことについて回答してください。

1. 大学でどんな外国語を勉強しましたか。(複数選択可)
①英語 ②中国語 ③フランス語 ④ドイツ語
2. 大学でそれぞれを何年勉強しましたか。(複数選択可)
英語： ①1年 ②2年 ③3年 ④4年 ⑤その他（ ）
中国語： ①1年 ②2年 ③3年 ④4年 ⑤その他（ ）
ドイツ語： ①1年 ②2年 ③3年 ④4年 ⑤その他（ ）
フランス語： ①1年 ②2年 ③3年 ④4年 ⑤その他（ ）
3. 在学中、外国語関係の資格を取得しましたか。
①はい ②いいえ
4. ①「はい」を答えた方は、具体的にどんな資格ですか。(複数可)
①英語系_____ ②第二外国語関係_____
5. 何級まで合格しましたか。(複数可)
①英語系_____ ②第二外国語関係_____

(二)あなたが就職活動した際のことについて回答してください。

6. 就職活動したときに、「どんな外国語を勉強したか」を聞かれましたか。
①聞かれた ②聞かれなかった ③覚えていない
7. 就職活動した際に、外国語の資格を取得して役に立ったと思いますか。
①とてもそう思う ②ある程度そう思う ③分からない ④あまりそう思わない ⑤まったくそう思わない
8. あなたは就職活動に成功したので、外国語の資格または勉強したと関係があると思いますか。
①とてもそう思う ②ある程度そう思う ③分からない ④あまりそう思わない ⑤まったくそう思わない

(三)あなたの現在に従事している仕事について回答してください。

9. 今の仕事で外国語を使いますか。
①よく使う ②時々使う ③あまり使わない ④まったく使わない
10. 問9で①あるいは②を回答した場合、具体的にどんな外国語を使いますか。(複数選択可)
①英語 ②中国語 ③ドイツ語 ④フランス語
11. あなたは、大学在学中に外国語を勉強してよかったと思いますか。

①とてもそう思う②ある程度そう思う ③分からない ④あまりそう思わない ⑤まったくそう思わない

12. あなたは今、母国語以外に、仕事や生活に一番役に立った言語はどれですか。

①英語 ②中国語 ③フランス語 ④ドイツ語

13. 大学で新たに外国語科目を開設することすれば、どんな言語を望みますか。

①韓国語 ②スペイン語 ③その他 ()

(B)あなたの海外留学経験について回答してください。

14. 在学中、海外留学プログラムに参加したことがありますか。

①はい ②いいえ

15. ①はいと回答した方は、留学先はどの国でしたか。

①アメリカ ②中国 ③ドイツ ④フランス ⑤その他 ()

16. 「①はい」を選択した方は、留学期間はどのぐらいでしたか。

①短期(1か月以内) ②3か月 ③半年 ④一年 ⑤一年以上

17. 「①はい」を選択した方は、留学経験は就職活動の際に役に立ちましたか。

①とても思います ②思います ③分かりません ④思いません

18. 「①はい」を選択した方は、留学経験は就職後の仕事に役に立ちましたか。

①とても思います ②思います ③分かりません ④思いません

19. あなたは先輩として、在学中の後輩に外国語学習に関して、アドバイスがあれば、書いてください。

言語選択：

語学資格：

海外留学：

その他：

20. あなたは卒業生として、母校の外国語教育について、アドバイスがあれば、書いてください。

ご協力ありがとうございました。